

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4078000108		
法人名	医療法人 十連病院		
事業所名	グループホームじゅうれん		
所在地	福岡県久留米市三潴町西牟田6557-89 (電話) 0942-65-1555		
自己評価作成日	平成 30 年 2 月 15 日	評価結果確定日	平成 30 年 3 月 20 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当ホームは、公園の一角にあります。リビングから見える十連公園の景色は、すばらしく地域の皆様の散歩道、憩いの場となっているところでもあります。すばらしい環境の中で鳥のさえずりを聞き季節折々の景色を肌で感じながら散歩コースとして利用しています。地域で過ごしてこられた皆様の今までもこれからも自分らしく【あるがままの生き方】を支援するという理念を大切に支援していきます。母体が医療法人ということもあり医療連携のサポートも安心出来ます。職員も母体の内部研修、又外部研修にも参加しスキルアップに努めています。認知症対応型通所介護（共用型）も開設しています。住み替えのダメージも少なく馴染みの関係を作りながら住まいは変わっても地域で自分らしく暮らすことを大切に取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会	
所在地	福岡県春日市原町3-1-7	
訪問調査日	平成 29 年 2 月 28 日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は公園に隣接しており、居間や居室から公園の池や桜が見え、景色を楽しむことが出来る。地域との交流が盛んで夏祭りや敬老会など、行事や会議には必ず声かけてもらい出席して楽しんでいる。また事業所主催の行事に来てもらったり、依頼された認知症について等の講話も行っている。職員は理念のとおり利用者のあるがままの生活をしてもらうよう支援している。職員の研修内容は出席できなかった職員のためにDVDで録画しており、欠席者はDVDを見て出席者と理解の度合いが同じになるように学ぶ機会がある。法人は、職員への正月の特別休暇や、季節の行事である節分やバレンタインデーにプレゼントや食事の無料提供など、働きやすい職場環境に心掛けている。

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【 I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	【地域の皆様とあるがままの暮らしを】を理念とし地域社会の一員として地域の中で暮らしていることを認識し玄関先に理念をあげ実践に向け努力している。	開設時から、地域密着型の視点を盛り込んだ事業所独自の理念がある。ミーティングでは、理念を掘り下げて全職員で話し合い、具体的なケアについて意見の統一を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事（誕生会・敬老会・夏祭り・清掃・歩こう会・じゅうれんサロン）に参加したり地域の方へ行事に来て頂くように呼びかけしている。また中学生の職場体験学習・保育園児との交流など日常的に行っている。	自治会に加入し、地域の清掃活動に利用者と一緒に参加し、また夏祭り・敬老会・歩こう会に参加している。事業所主催の春祭りやイベント開催時には地域の人にも呼びかけするなど、地域交流に努めている。保育園との交流や中学生の体験学習を受け入れるなど、日常的に交流している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	尚寿会の誕生会に参加したり、認知症予防血圧測定・健康管理についてのお話を行ったり関わり方、対応について相談にのっている。学生の体験学習やボランティアの受け入れも積極的に行っている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度自治会・民生委員・尚寿会・包括支援センター・行政職員を交え事業所の活動状況や日々の様子をスライドショーで紹介しご意見やアドバイスを頂きながらサービスの向上に努めている。また時には、希望に応じ情報提供も行っている。	運営推進会議を2ヶ月に1回開催している。事業所からスライドで利用者やサービスの実際や今後の活動計画を報告し、委員から意見・要望・質問などをもらっている。「じゅうれんサロン」を昨年6月立ち上げ、そこでの意見を活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に行政職員・包括支援センターの方に参加して頂いたり、事業所の実情を説明しどのような対応が良いのか気軽に相談している。現在じゅうれんサロン等を実施しているが、相談したり参加いただいている。	行政担当者にサービスや運営などについて日頃から相談や助言をもらい連携を図っている。じゅうれん1階のデイケア施設の日曜休日を利用して、「じゅうれんサロン」を開設しており事前に広報で地域の世帯へ呼びかけ、10数名が参加し相談や集まりの場所になっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で取り組み外部研修にも参加し拘束について学ぶ機会を作り意識付けしている。マニュアルも準備している。	日中玄関は施設していない。身体拘束に関するマニュアルがあり、法人また市役所で開催された外部研修に参加している。テキストと研修記録がある。職員は外出傾向を把握し、同法人の病院職員の連携もあり職員間で見守り声掛けなどを行っている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加し全職員が学び機会を作っている。メディアの報道などにも敏感で法人より情報が入り意識付け行っている。職員のストレスチェックを実施し心身の状態把握に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方もあり関係機関の方と勉強させていただいている。施設内にパンフレットを用意したり、運営推進会議においても説明したりしている。外部・内部研修にも参加し学ぶ機会を作っている。	権利擁護に関する制度については、パンフレットを用意し、利用者・家族には契約時に説明している。対応が必要と思われる利用者にはアドバイスをしながら利用者の支援に繋げている。全職員は内部・外部研修を受講している。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	初回相談時から家族の希望を伺い本人同行で見学や遊びに来て頂いている。入居時には、契約書・重要事項説明書・医療連携についても説明し納得を確認・同意を頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には、常に意見を聞くようにしている。家族には、面会時、家族会で問いかけている。介護相談員の訪問の受け入れも行いご意見を頂いている。玄関入口にご意見箱を設置している。	日常の関わりの中で、利用者の声を聴き一人ひとりの思いや要望の声に耳を傾け、その把握に努め応えている。家族の訪問時には状況など積極的に報告している。10月の家族会はホールで、利用者の普段の生活状況をスライドで紹介し、その後利用者のパン食い競争で賑わっている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の勉強会やミーティングで気づきや意見を話し合い多くの意見を求め自由に検討できる環境作りを行っている。現場職員の意見や提案は、大事にしている。	自己評価は全職員の意見を聴取して取り組んでいる。職員は日常的に運営に対する意見や提案、研修受講、勤務に対する希望など言いやすい職場環境にある。利用者の「個人日誌」一目でわかるよう書式設定を新たににして、時間短縮につながった。職員の気づきやアイデアを運営に取り入れている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は、資格(介護支援専門員)を取ったり外部研修を希望する向上心を持っている。結婚・出産後も働けるように職場環境を整え働きやすい環境作りを努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用に当たっては、制限は行っていない、面接時にご本人の介護に対する思いを採用条件にしている。勤務時間や休みの希望など働きやすい環境作りを行っている。得意分野が発揮でき生き生きと勤務できるように支援している。	職員選考では、介護に対する思いを採用条件にしている。「人権とは」「尊厳とは」の研修を受け報告書がある。職員各自の能力を活かし意欲を持って働ける職場環境を目指し、研修の参加、スキルアップに努めている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人において外部より講師を招き人権学習が開催され全職員に意識付けが行われている。当日参加できなかった方は、後日DVDによる研修が実施義務づけられている。	法人で外部より講師を招いて、人権学習が行われている。事業所は当日参加出来なかった職員にはDVDによる研修が義務付けられている。研修記録もある。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修など必要に応じ参加を勧めている。働きながら資格が取得できるようにまた研修が受けられるように機会を作っている。現在は、看護師・介護福祉士等の資格保持者である。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	久留米市の事業者協議会や福岡県のグループホーム協議会に加盟し研修会や情報交換を行っている。また地域のグループホームの推進会議に参加しお互いにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族、ご本人の意向を確認し情報収集を行い安心できる環境を作っている。二人だけの時間を作り個別対応や本人の思いをしっかりと聞いて馴染みの関係を作るように努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が希望されている理由や困っていることをしっかり面会時に把握し安心して任せていただけるように努めている。お互い情報交換し職員全員で共有しながらご家族とも密に連絡を取ったり信頼関係を作っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時グループホームは、もちろん各サービスの説明も行っている。必要に応じたのグループホームへの見学も勧めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者と共に生活していると言う考えの基本を大事にしている。出来ない部分は、手伝い得意分野は、腕をふるっていただいたり教えて頂いたり共に支え合う一緒に生活していると言う関係に努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のホーム便りを通し生活状況を伝えている。面会時には、日頃の様子をお伝えしている。家族と共に楽しめるイベントを開催したり日頃の状況をスライドショーでお見せしたりご家族で楽しいひと時を過ごせるように絆を大切にしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の希望に応じ自宅、納骨堂にお参りに出かけたりしている。知人からの電話、兄弟への年賀状、電話などなじみの方との関係も途切れないように支援している。	正月の外泊やお盆の一時帰宅、納骨堂参り、電話、職員の協力で自身の写真付き年賀状の送付、また知人から訪問してもらうなど、馴染みの人と場の関係を継続出来るよう支援に努めている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	暮らしの中で築いてきた人間関係は、尊重し、仲の良いご利用者同士、一緒にお茶を飲んだりお話出来るようにまた孤立しないようにスタッフも一緒に輪の中に入って支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設事業所や他施設に行かれてもその生活状況を聞いたり、面会に行ったり状態を聞いたりしている。中には、様子を報告に来られたりする方もありいつでも相談にのりますと説明することも有る。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時に、ご家族より希望や意向をお聞きしご利用者と日々生活しながら把握に努めている。本人の意志を伝えられない方は、表情や動作などで把握しご家族と相談しながら本人の思いを尊重し対応している。	利用者の日頃の様子を一人ひとり把握している。利用者の表情やしぐさを読み取り声掛けを行い、コミュニケーションを取りながら思いや希望を聞き、支援を行っている。また利用者の入居時や面会時に家族からの要望も聞き取り、支援に活かしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族より生活歴の情報を頂き日々の生活の中から確認しながら生活支援を行っている。知人、親類など面会時に情報を得られるように声掛けを行いお話をさせて頂いている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態は、申し送りノート、個人記録で共用できるようにしている、生活の質の向上を目指している為、日々の変化の記録を大切にしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	自分らしく生活するという基本を大切に本人、ご家族の要望を聞き多職種と検討を行い意向が反映される介護計画を作成している。介護計画の実施状況の記録を基にカンファレンス・モニタリングを実施している。	毎月のカンファレンスの内容やアセスメント、担当者や医師の意見を踏まえて、家族や利用者へ要望を聞いて作成している。作成した介護計画は、作成担当者だけでなく他の職員も把握しており、家族へ説明している。利用者が大切にしてきたことや、家族の意見を重視して作成している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日々の様子やケアプラン実施状況など記録されている為日々の変化がカンファレンス・モニタリングに活かされよりよいケアが提供出来るようにしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の意向状況に応じ対応を行っている。医療法人併設の為医療連携も万全でありご希望により看取り支援にも取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の自治会長・民生委員・保育園など日々の生活で交流がある。日々の散歩や買物外出を通じて近所の方々より声掛け頂いている。じゅうれんサロン等にも参加し地域の方々とも交流を図っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設入居時にかかりつけ医について家族と相談しており希望に応じてかかりつけ医と連携を行っている。	入居前に通院していた病院を継続してかかりつけ医として利用することができ、入居時に説明している。同法人の病院をかかりつけ医にしている場合は、病院が隣のため直ぐに通院でき、雨の日などは医師が事業所へ来て対応している。他の病院に受診する際は、職員が同行したり家族の協力を得て通院している。受診の結果はその日のうちに家族と連絡を取り情報を共有している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が常駐しているので常に健康管理や状態変化を報告し対応できる体制にあり気軽に相談している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、情報提供を行い安心して入院治療ができるように支援している。入院時には、訪問し情報交換を行うようにしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族には、入居時に意向を尋ね重度化に伴いその都度話し合いを行っている。ホームで最期まで希望される家族も多く家族や馴染みの職員の中で最期を迎えられる方も増えてきている。併設病院との協力体制も確保している。	重度化や終末期に関しての対応方針は明文化されており、契約時や折に触れて説明している。重度化してもいつまでも、普段と変わらない生活をしてもらうように配慮し、少しの時間でも他の利用者と一緒に過ごせるよう身を起こす時間を取ったりしている。職員は、頻りに様子を見ながら声掛けを行っている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に対応出来るよう酸素や吸引器を常備している。また対応マニュアルも整備している。法人内の研修やグループホーム勉強会時に（A D E・心配蘇生法）使用法についても定期的に行い学ぶ機会を設けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人独自の地震、水害時を想定したマニュアルがある。年2回災害を想定した訓練を行い地域の方にも声かけしている。非常食、オムツ、ペーパー類の備蓄も備えている。	年2回、夜間想定を含めて火事と水害の避難訓練を行っている。火事と水害と地震の対応マニュアルがある。消防署の協力を得て、避難経路の確認や消火器の使い方を学んでいる。民生委員が参加することもあり、助言をもらっている。非常用の食料や備品は事業所内に保管している。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報同意書を作成し、家族に個人情報に関する対応について了解を頂いている。一人一人の人格を尊重し生活歴を踏まえ自尊心を傷つけない対応や声かけを行っている。無理強いしない言葉や態度、不愉快にさせないような言葉かけなど特に心掛けている。	トイレ誘導の際には、「トイレ」という言葉を使わないようにしている。「ちょっと来て下さい」と言ったりして対応している。また居室を大事にしている利用者には、居室内の物を動かさないよう心がけており、掃除も利用者に任せて職員はそれを見守り、利用者のプライバシーを確保し尊重している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で本人とゆっくり向き合い話をする時間を大切に、本音や希望を言える雰囲気を作ることで、スタッフにわがままを言えるような関係作りを努めている。スタッフや家族の意見を押し付けず意見が決定できるように働きかけている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活リズムを最優先し無理強いせず言葉かけや見守りで利用者のペースに合わせた支援に努めている。在宅生活の延長でありたいとの思いで支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までの生活習慣を大切に、毎日欠かさずお化粧を続けている方もある。自分で出来なくなった方も、家族の思いを大切にスタッフがやっている。外出や誕生日等特別な日にはおしゃれをされたりしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を聞きメニューへ取り入れ一人一人の状態に合わせた形態や食欲がでる色彩にも気を使っている。出来る方にはテーブル拭き、お茶入れ、食材の皮むき等を手伝って頂いている。	食事のメニューは利用者の食べたい物を聞き、参考にして栄養士の助言を踏まえて作成している。利用者は野菜の皮むき等の支度を手伝ったりしている。春には公園のつくしを散歩の時に採って来たり、毎日のように利用者と施設内のサクランボやタケノコ堀りをして、旬の食材を味わい、楽しく食事ができるようにしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合わせた量や病状による食事量、味付け等細やかに対応している。食事水分摂取量の把握に努め、入りが悪い時には口に合う別メニューを用意したり飲み物を用意し確保している。ミキサーやトロミ又補助食品で対応することもある。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、一人一人に合わせた見守りや介助を行っている。義歯の方は外して磨くように声掛けしたり、汚れが落ちているかチェックを行い上手に出来ていない方には最終的に仕上げを行い清潔保持に努めている。必要に応じ歯科医の訪問指導を受け入れている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンの把握に努め本人のサインを見逃さないようにしている。気持ちよい排泄が出来るようにスタッフで検討し支援している。	日々の個別記録票に排泄記録欄がありこれを基に、一人ひとりの時間をみて声掛け誘導している。入居時には利用者の身体状況を把握し、長時間のバットから小さいバットへ変更するなど、適切な支援を職員同士で話し合い実施している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は乳製品や野菜、食物繊維を多く取り入れて水分確保、適度な運動を心掛け便秘予防に努めている。毎日排便チェックを行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	ご利用者様の健康状態を鑑みながら入浴支援を行っている。季節毎に入浴剤、バラ湯、柚子湯等にし楽しんで入浴して頂いている。コミュニケーションをとるよい時間となっている。汚染時など臨機応変に対応している。	週3～4回入浴する利用者が多いが、毎日用意しているので要望や必要に応じて入浴することが出来る。入浴剤や柚子湯、頂き物の花を浮かべて心地よく感じてもらうようにしている。また職員と会話をしたり、歌を歌ったりして楽しい時間になっている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、生活習慣や体力に合わせ、レク、散歩などをして過ごして頂き、夕食後からは就寝へ向けての、環境作りを心がけ温かい飲み物の提供やゆっくり話を聞いたり一緒に過ごせるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルを作成し職員が入居者一人一人の内服している薬の変更、臨時薬の処方、処置内容等を記載し情報の共有を行い状態観察をしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に情報を頂き、料理、裁縫、編み物など得意分野の力を発揮できるように場面作りをしている。外出、ドライブ、散歩して気分転換している。飲み物は本人希望で緑茶、コーヒー、紅茶等セレクト提供している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は近郊の公園へ季節を楽しめるように外出を行っている。本人希望にて買物支援も行っている。幼なじみの方からお花を頂くこともある。	天気の良い日には毎日事業所の敷地内や隣接した公園へ散歩に出かけている。公園の東屋で持参したお茶やお菓子を食べて楽しんでいる。季節の花見やひな祭りを見にドライブに出かけている。誕生日の個人レクレーションとしてレストランなど、利用者の好きなどところに行ったりしている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で財布を持ちたいと希望される方は家族の了解のもと自己管理して頂いているバスバイク、外出時には自分で支払いされる方もある。買物の希望があれば個別に対応している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望時は、自由にかけて頂き、遠方でなかなか面会できない家族には、定期的に電話を依頼し交流を絶やさないようにしている。年賀状、暑中見舞いは(本人の写真入りで)ホーム便りを送り近状報告を行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ホールには、季節の花や季節に合わせた入居者様の作品を飾り窓から外を眺めることで、季節感を感じられるようにしている。バルコニーにも季節を感じられるように花やハーブを栽培している。ホール内ではソファや椅子等好きな場所へ座って頂き居心地よく過ごせるよう工夫を行っている。	居間は広い空間となっており中央で利用者が集まるソファの他にも、ソファや椅子が多く設置されている。利用者の作品と行事や外出先で撮影した写真をレイアウトして飾っている。春には窓から桜並木を見ることができ、楽しみとなっている。共用型認知症デイの利用者も日中同じ空間で過ごして一緒に寛いでいる。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間ホールにはソファー、和室を準備し仲良しの入居者様同士のんびりと過ごせるようにしている。テラスにもテーブルや椅子を設置しいつでも利用出来るようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた寝具や家具を持ち込んで頂いたり家族の写真や季節の花を飾ったりと好みに応じ自由に居室内をアレンジし居心地良く過ごせるように配慮している。	居室は、利用者の使い慣れたタンスやソファーが持ち込まれている。拡大写真を壁一面に貼り、家族と一緒にの雰囲気を作るなど家族の思いが、うかがえる居室になっている。また散歩の際に採ってきた花が飾られ、個性のある居室づくりになっている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内は入居者の方の状況に合わせた配慮を行い全面バリアフリーとなっており廊下には手すりを設置したり、車椅子自走も安全に行えるように十分なスペースも確保している。トイレも出来るだけ自立した生活ができるよう配慮している。ADLの変化に合わせ検討している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2／3くらいと
				③ 家族の1／3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2／3くらいが
				③ 職員の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての利用者が
			○	② 利用者の2／3くらいが
				③ 利用者の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての家族等が
			○	② 家族等の2／3くらいが
				③ 家族等の1／3くらいが
				④ ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	【地域の皆様とあるがままの暮らしを】を理念とし地域社会の一員として地域の中で暮らしていることを認識し玄関先に理念をあげ実践に向け努力している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域行事(誕生会・敬老会・夏祭り・清掃・歩こう会・じゅうれんサロン)に参加したり地域の方へ行事に来て頂くように呼びかけしている。また中学生の職場体験学習・保育園児との交流など日常的に行っている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	尚寿会の誕生会に参加したり、認知症予防血圧測定・健康管理についてのお話をしたり関わり方、対応について相談にのっている。学生の体験学習やボランティアの受け入れも積極的に行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度自治会・民生委員・尚寿会・包括支援センター・行政職員を交え事業所の活動状況や日々の様子をスライドショーで紹介しご意見やアドバイスを頂きながらサービスの向上に努めている。また時には、希望に応じ情報提供も行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に行政職員・包括支援センターの方に参加して頂いたり、事業所の実情を説明しどのような対応が良いのか気軽に相談している。現在じゅうれんサロン等を実施しているが、相談したり参加いただいている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で取り組み外部研修にも参加し拘束について学ぶ機会を作り意識付けしている。マニュアルも準備している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加し全職員が学ぶ機会を作っている。メディアの報道などにも敏感で法人より情報が入り意識付けを行っている。職員のストレスチェックを実施し心身の状態把握に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方もあり関係機関の方と勉強させていただいている。施設内にパンフレットを用意したり、運営推進会議においても説明したりしている。外部・内部研修にも参加し学ぶ機会を作っている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	初回相談時から家族の希望を伺い本人同行で見学や遊びに来て頂いている。入居時に菌、契約書・重要事項説明書・医療連携についても説明し納得を確認・同意を頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には、常に意見を聞くようにしている。家族には、面会時、家族会で問いかけている。介護相談員の訪問の受け入れも行いご意見を頂いている。玄関入口にご意見箱を設置している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の勉強会やミーティングで気づきや意見を話し合い多くの意見を求め自由に検討できる環境作りを行っている。現場職員の意見や提案は、大事にしている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は、資格（介護支援専門員）を取ったり外部研修を希望する向上心を持っている。結婚・出産後も働けるように職場環境を整え働きやすい環境作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生ききとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用に当たっては、制限は行っていない、面接時にご本人の介護に対する思いを採用条件にしている。勤務時間や休みの希望など働きやすい環境作りを行っている。得意分野が発揮でき生ききと勤務できるように支援している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人において外部より講師を招き人権学習が開催され全職員に意識付けが行われている。当日参加できなかった方は、後日DVDによる研修が実施義務づけられている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修など必要に応じ参加を勧めている。働きながら資格が取得できるようにまた研修が受けられるように機会を作っている。現在は、看護師・介護福祉士等の資格保持者である。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	久留米市の事業者協議会や福岡県グループホーム協議会に加盟し研修会や情報交換を行っている。また地域のグループホームの推進会議に参加しお互いにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族、ご本人の意向を確認し情報収集を行い安心できる環境を作っている。二人だけの時間を作り個別対応や本人の思いをしっかり聞いて馴染みの関係を作るように努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が希望されている理由や困っていることをしっかり面会時に把握し安心して任せていただけるように努めている。お互い情報交換し職員全員で共有しながらご家族とも密に連絡を取ったり信頼関係を作っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時グループホームは、もちろん各サービスの説明も行っている。必要に応じ他のグループホームへの見学も勧めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者と共に生活していると言う考えの基本を大事にしている。出来ない部分は、手伝い得意分野は、腕をふるっていただいたり教えて頂いたり共に支え合う一緒に生活していると言う関係に努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のホーム便りを通し生活状況を伝えている。面会時には、日頃の様子をお伝えしている。家族と共に楽しめるイベントを開催したり日頃の状況をスライドショーでお見せしたりご家族で楽しいひと時を過ごせるように絆を大切にしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の希望に応じ自宅、納骨堂にお参りに出かけたりしている。知人からの電話、兄弟への年賀状、電話などなじみの方との関係も途切れないように支援している。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	暮らしの中で築いてきた人間関係は、尊重し、仲の良いご利用者同士、一緒にお茶を飲んだりお話出来るようにまた孤立しないようにスタッフも一緒に輪の中に入って支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設事業所や他施設に行かれてもその生活状況を聞いたり、面会に行ったり状態を聞いたりしている。中には、様子を報告に来られたりする方もありいつでも相談にのりますと説明することも有る。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時に、ご家族より希望や意向をお聞きしご利用者と日々生活しながら把握に努めている。本人の意志を伝えられない方は、表情や動作などで把握しご家族と相談しながら本人の思いを尊重し対応している。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族より生活歴の情報を頂き日々の生活の中から確認しながら生活支援を行っている。知人、親類など面会時に情報を得られるように声掛けを行いお話をさせて頂いている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態は、申し送りノート、個人記録で共用できるようにしている、生活の質の向上を目指している為、日々の変化の記録を大切にしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	自分らしく生活するという基本を大切に本人、ご家族の要望を聞き多職種と検討を行い意向が反映される介護計画を作成している。介護計画の実施状況の記録を基にカンファレンス・モニタリングを実施している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日々の様子やケアプラン実施状況など記録されている為日々の変化がカンファレンス・モニタリングに活かされよりよいケアが提供出来るようにしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の意向状況に応じ対応を行っている。医療法人併設の為医療連携も万全でありご希望により看取り支援にも取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の自治会長・民生委員・保育園など日々の生活で交流がある。日々の散歩や買物外出を通じて近所の方々より声掛け頂いている。じゅうれんサロン等にも参加し地域の方々とも交流を図っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設入居時にかかりつけ医について家族と相談しており希望に応じてかかりつけ医と連携を行っている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が常駐しているので常に健康管理や状態変化を報告し対応できる体制にあり気軽に相談している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、情報提供を行い安心して入院治療ができるように支援している。入院時には、訪問し情報交換を行うようにしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族には、入居時に意向を尋ね重度化に伴いその都度話し合いを行っている。ホームで最期まで希望される家族も多く家族や馴染みの職員の中で最期を迎えられる方も増えてきている。併設病院との協力体制も確保している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に対応出来るよう酸素や吸引器を常備している。また対応マニュアルも整備している。法人内の研修やグループホーム勉強会時に(ADE・心配蘇生法)使用方法についても定期的に行い学ぶ機会を設けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人独自の地震、水害時を想定したマニュアルがある。年2回災害を想定した訓練を行い地域の方にも声かけしている。非常食、オムツ、ペーパー類の備蓄も備えている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報同意書を作成し、家族に個人情報に関する対応について了解を頂いている。一人一人の人格を尊重し生活歴を踏まえ自尊心を傷つけない対応、声かけを行っている。無理強いしない言葉や態度不愉快にさせないよう言葉かけなど特に心掛けている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で本人とゆっくり向き合い話をする時間を大切にし、本音や希望を言える雰囲気を作ることで、スタッフにわがままを言えるような関係作りに努めている。スタッフや家族の意見を押し付けず意見が決定できるように働きかけている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活リズムを最優先し無理強いせず言葉かけや見守りで利用者のペースに合わせた支援に努めている。在宅生活の延長でありたいとの思いで支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までの生活習慣を大切にし、毎日欠かさずお化粧を続けている方もある。自分で出来なくなった方も、家族の思いを大切しスタッフがやっている。外出や誕生日等特別な日にはおしゃれをされたりしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を聞きメニューへ取り入れ一人一人の状態に合わせた形態や食欲がでる色彩にも気を使っている。出来る方にはテーブル拭き、お茶入れ、食材の皮むき等を手伝って頂いている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合わせた量や病状による食事量、味付け等細やかに対応している。食事水分摂取量の把握に努め、入りが悪い時には口に合う別メニューを用意したり飲み物を用意し確保している。ミキサーやトロミ又補助食品で対応することもある。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、一人一人に合わせた見守りや介助を行っている。義歯の方は外して磨くように声掛けしたり、汚れが落ちているかチェックを行い上手に出来ていない方には最終に仕上げを行い清潔保持に努めている。必要に応じ歯科医の訪問指導を受け入れ状態にある。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンの把握に努め本人のサインを見逃さないようにしている。気持ちよい排泄が出来るようにスタッフで検討し支援している。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は乳製品や野菜、食物繊維を多く取り入れて水分確保、適度な運動を心掛け便秘予防に努めている。毎日排便チェックを行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	ご利用者様の健康状態を鑑みながら入浴支援を行っている。季節毎に入浴剤、パラ湯、柚子湯等に楽しんで入浴して頂いているコミュニケーションをとるよい時間となっている。汚染時など臨機応変に対応している。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、生活習慣や体力に合わせ、レク、散歩などをして過ごして頂き、夕食後からは就寝へ向けての、環境作りを心がけ温かい飲み物の提供やゆっくり話を聞いたり一緒に過ごせるようにしている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルを作成し職員が入居者一人一人の内服している薬の変更、臨時薬の処方、処置内容等を記載し情報の共有を行い状態観察をしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に情報を頂き、料理、裁縫、編み物など得意分野の力を発揮できるように場面作りをしている。外出、ドライブ、散歩して気分転換している。飲み物は本人希望で緑茶、コーヒー、紅茶等セレクト提供している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は近郊の公園へ季節を楽しめるように外出を行っている。本人希望にて買物支援も行っている。幼なじみの方からお花を頂くこともある。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で財布を持ちたいと希望される方は家族の了解のもと自己管理して頂いているバスバイク、外食時には自分で支払いされる方もある。買物の希望があれば個別に対応している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望時は、自由にかけて頂き、遠方でなかなか面会できない家族には、定期的に電話を依頼し交流を絶やさないようにしている。年賀状、暑中見舞いは（本人の写真入りで）ホーム便りを送り近状報告を行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ホールには、季節の花や季節に合わせた入居者様の作品を飾り窓から外を眺めることで、季節感を感じられるようにしている。バルコニーにも季節を感じられるように花やハーブを栽培している。ホール内ではソファや椅子等好きな場所へ座って頂き居心地よく過ごせるよう工夫を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間ホールにはソファ、和室を準備し仲良しの入居者様同士のんびりと過ごせるようにしている。テラスにもテーブルや椅子を設置しいつでも利用出来るようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた寝具や家具を持ち込んで頂いたり家族の写真や季節の花を飾ったりと好みに応じ自由に居室内をアレンジし居心地良く過ごせるように配慮している。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内は入居者の方の状況に合わせた配慮を行い全面バリアフリーとなっており廊下には手すりを設置したり、車椅子自走も安全に行えるように十分なスペースも確保している。トイレも出来るだけ自立した生活ができるよう配慮している。ADLの変化に合わせ検討している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2／3くらいと
				③ 家族の1／3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2／3くらいが
				③ 職員の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての利用者が
			○	② 利用者の2／3くらいが
				③ 利用者の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての家族等が
			○	② 家族等の2／3くらいが
				③ 家族等の1／3くらいが
				④ ほとんどいない